

「1枚1枚思いを込めて洗いました」 写真洗浄ボランティアを 配送センターで実施

コープみえ



洗浄が終わり、きれいになったアルバムと写真。

8月下旬から9月上旬の4日間、コープみえの組合員や職員など、延べ89人が参加し、写真洗浄ボランティア活動が行なわれた。この活動は、みえ災害ボランティア支援センターとの連携活動の一つとしてコープみえが実施したもので、組合員の瓜生恵美子さんは、「何かしたいと思っても、参加の機会がなかったのうれしかったです」と話す。

会場となったコープみえ・鈴鹿センターの会議室（鈴鹿市）や松阪センターの組合員施設（松阪市）には、津波被害に遭った岩手県山田町で回収されたアルバムが集められた。

作業は、以下の手順で行なう。
①濡れてアルバムに貼り付いた写真を水に漬けて剥がし、1枚ずつ

丁寧に泥を落とす②新聞紙やタオルで水分を取り、洗濯物を干すようにつり下げて乾燥させていく。同時に写真が収められていたアルバムの表紙も可能な限り洗浄し、乾燥させる③その作業と並行して、アルバムごとに写真を仕分けした上で、持ち主の手掛かりになる情報（写真裏面のメモや写真本体に写っている情報など）を記入用紙に記録。そして、新しいポケットアルバムに移し替えていく④最後に、透明のビニール袋にポケットアルバムと乾燥剤を入れ、元のアルバム表紙や情報を記録したメモと一緒に密封し、一連の作業は終了だ。

なお、洗浄・修復された写真は約2,000枚にも上ったという。

組合員の山田照美さんは、「こ

の人たちがご無事で、これらの写真のように幸せな時を、これからも写せるようになるといいですね」と、思いを込めて作業を行っていた。また、大学生の息子さんと参加した組合員の楠井久美子さんは、「現地には行けないので、生協での取り組みに参加できて、ありがたいです。（私は）教師をしているので、この体験を生徒にも伝えていきたい」と話し、息子さんは「貴重な体験ができてよかったです」と、それぞれが三重から、遠く岩手へと思いをはせていた。

「自分たちができることを行なっていきたい」。組合員の思いは、岩手の人びとにきっと届いたに違いない。



写真を丁寧に洗浄していくボランティアの皆さん。



乾燥させる際も、細心の注意を払って作業する。